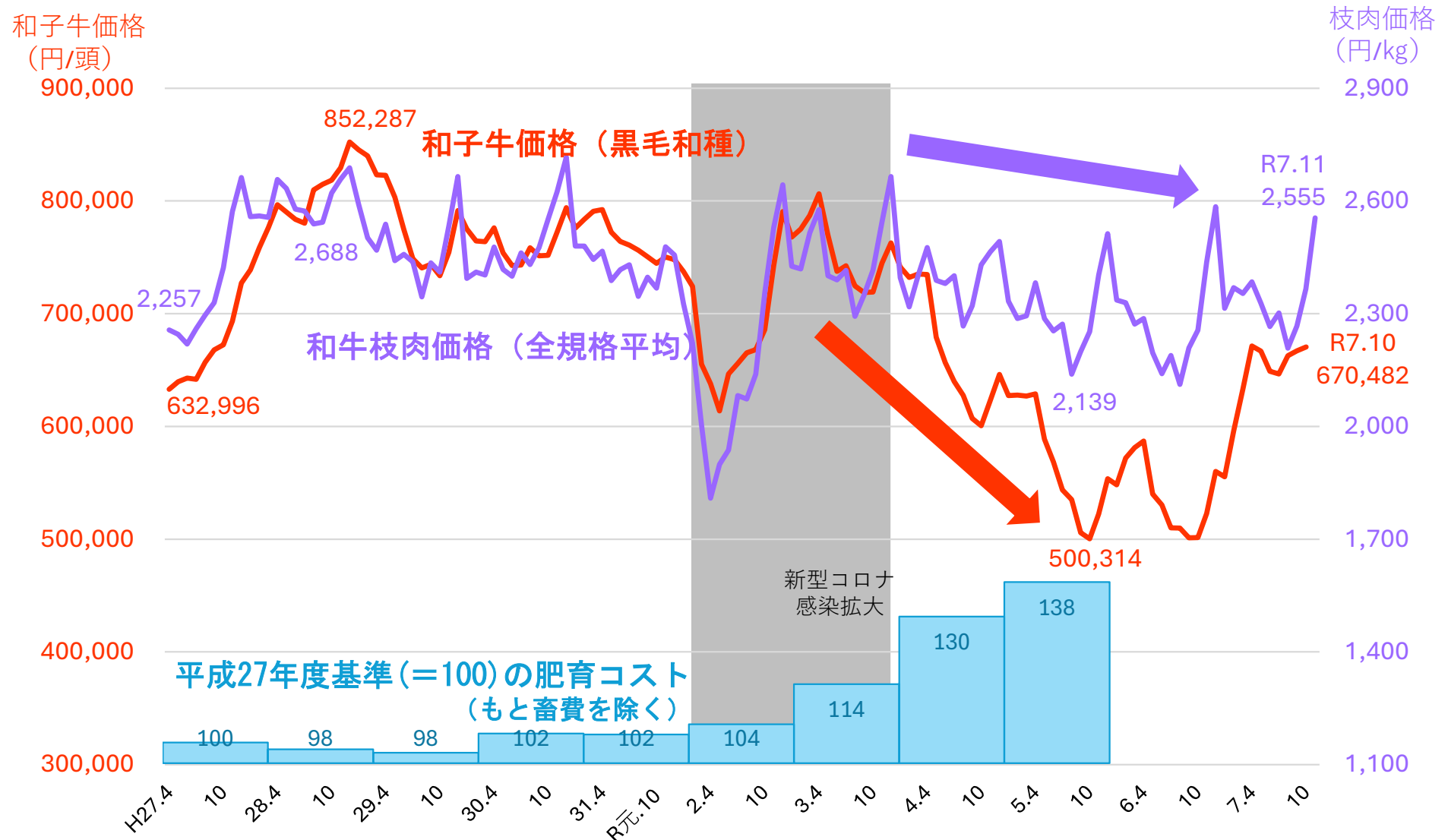


和牛肉の需給動向

令和7年12月版

和子牛取引価格と和牛枝肉価格の動向

- 和子牛価格と和牛枝肉価格の変動には、一定の連動性が見られる。
- 新型コロナウイルス感染症感染拡大後は、和子牛価格、和牛枝肉価格ともに下落傾向。
また近年は、肥育農家の生産コストの上昇等の影響により、和子牛価格が低い水準で取引される傾向。



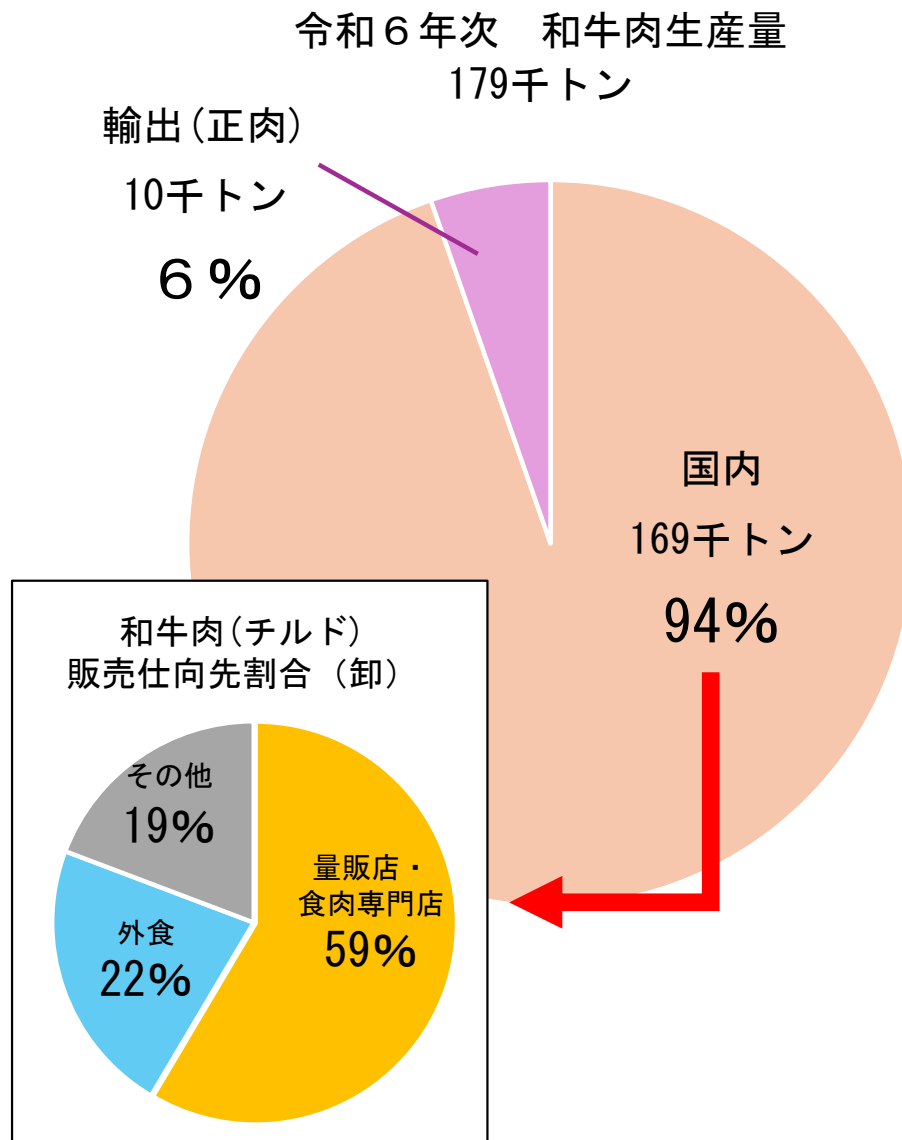
資料: ALIC「肉用子牛取引情報」(令和7年8月以降は速報値)

農林水産省「畜産物流通統計」(中央10市場計、令和7年11月は速報値(食肉鶏卵課調べ))

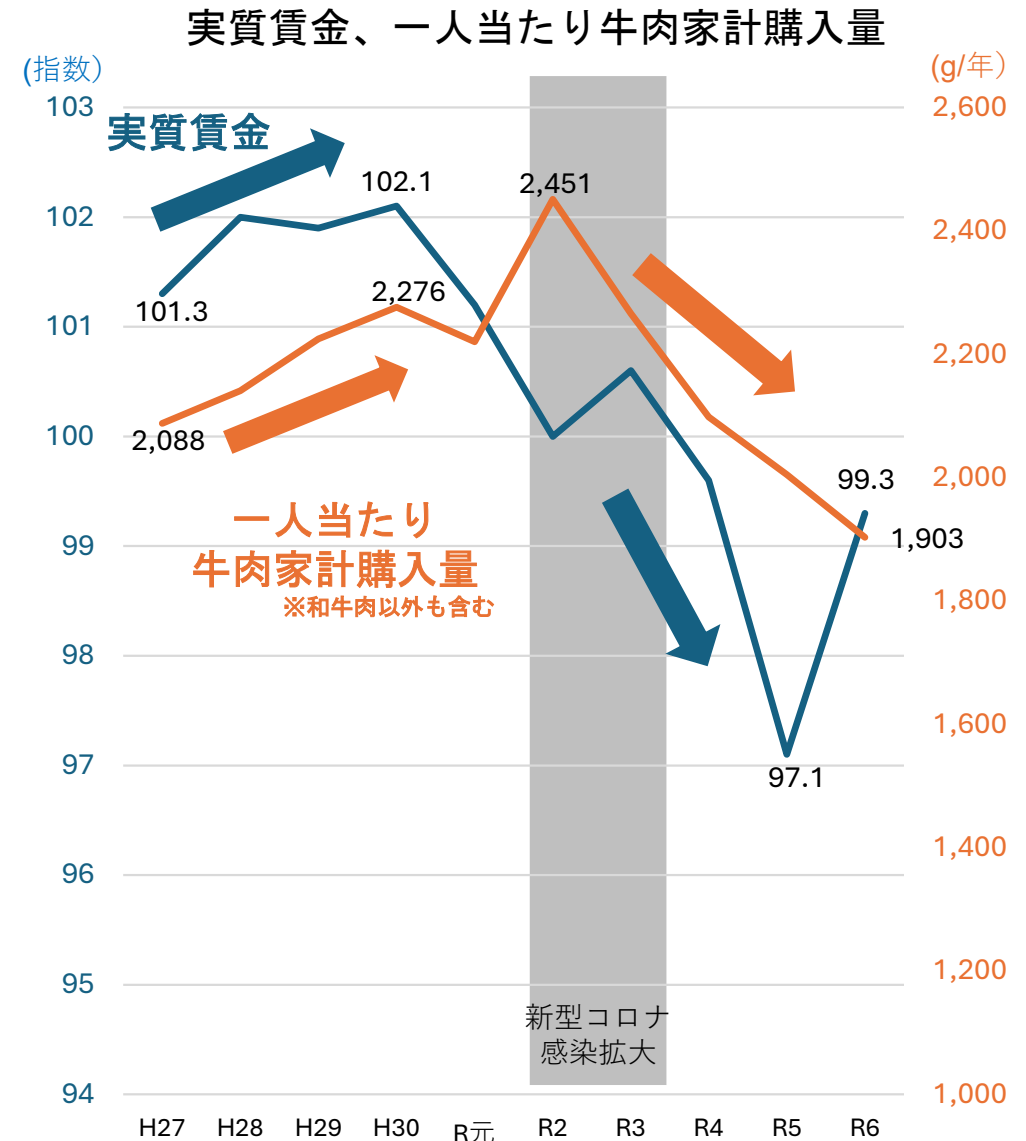
農林水産省「生産費統計」(去勢若齢肥育牛の支払利子・地代算入生産費からもと畜値を差し引き、平成27年度コストに対する増減率を算出、令和元年度以降は年次ベース)

和牛肉の仕向け先、実質賃金と牛肉家計購入量の動向

- 和牛肉生産量のうち、国内仕向けは94%。国内仕向けのうち、量販店等向けが59%で最大。
- 実質賃金と一人当たり牛肉家計購入量の変動には、一定の連動性が見られる。
- 近年は実質賃金の下落に伴い、一人あたり牛肉家計購入量も下落傾向。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」
ALIC「食肉販売動向調査結果」(2024年度上半期)

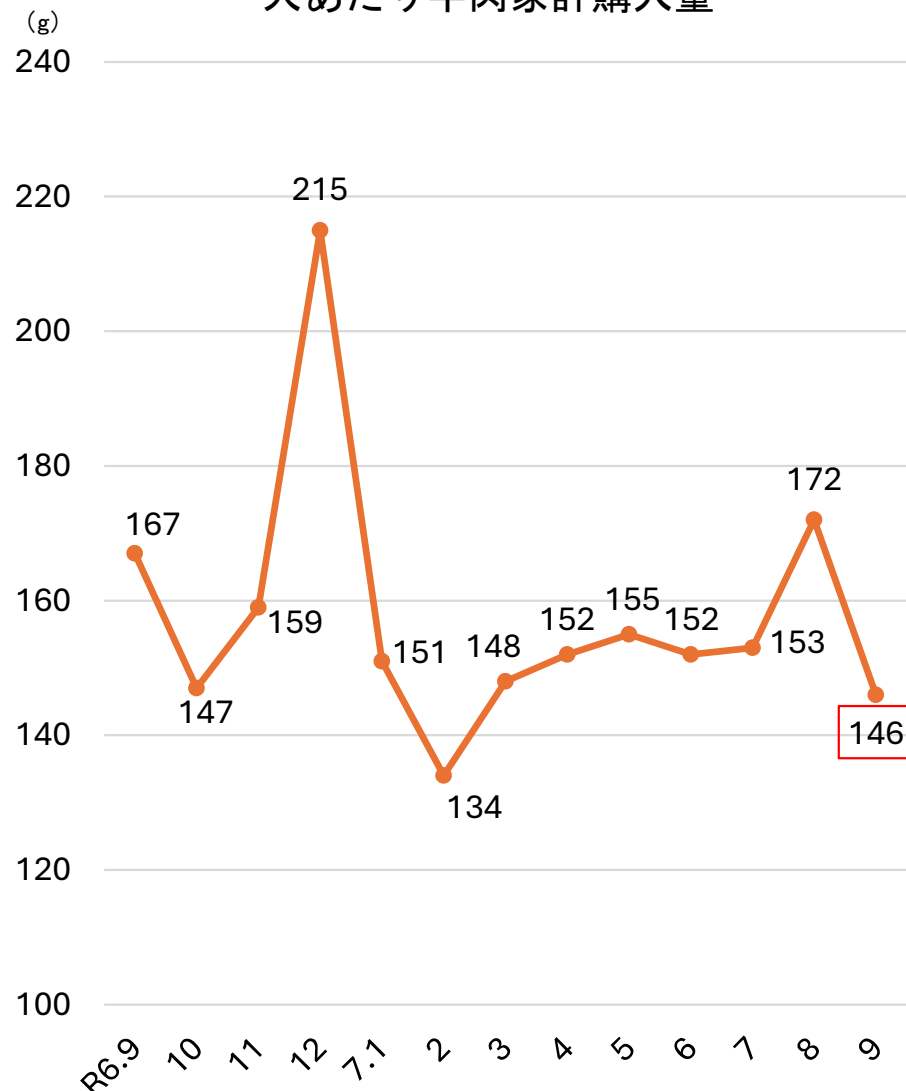


資料：厚生労働省「毎月勤労統計」全国調査、常時5人以上を雇用する事業所、現金給与総額、年次総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数、年度

直近の牛肉の家計購入量等

- 一人当たり牛肉家計購入量は、年末年始需要のある12月に顕著な増加が見られる。
また年度末からGWにかけての時期や、夏休み・お盆の時期にも小幅な増加が見られる。
- 都市別の牛肉消費は西日本で多い傾向があり、多い地域と少ない地域で3倍程度の差が見られる。

一人あたり牛肉家計購入量



資料：総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数

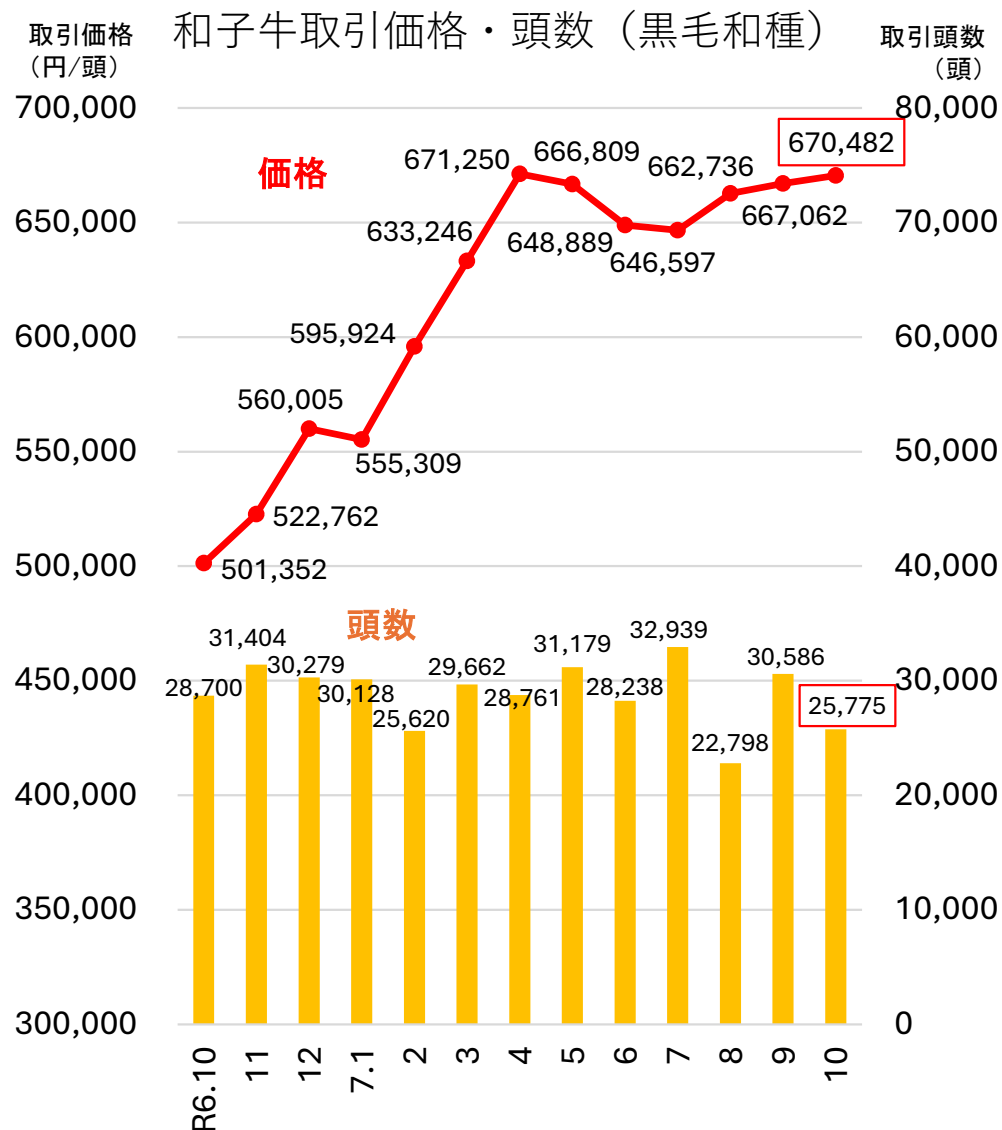
都市別牛肉消費ランキング
(一人当たり、年間)

金額		数量	
堺市	12,560円	1	堺市 3,008g
神戸市	12,388円	2	北九州市 2,969g
京都市	12,381円	3	大阪市 2,947g
和歌山市	12,064円	4	松山市 2,938g
奈良市	11,760円	5	山口市 2,876g
		・	
		・	
		・	
長野市	4,211円	48	浜松市 1,333g
前橋市	4,201円	49	長野市 1,193g
福島市	4,181円	50	盛岡市 1,143g
新潟市	3,679円	51	前橋市 1,118g
盛岡市	3,613円	52	新潟市 1,110g

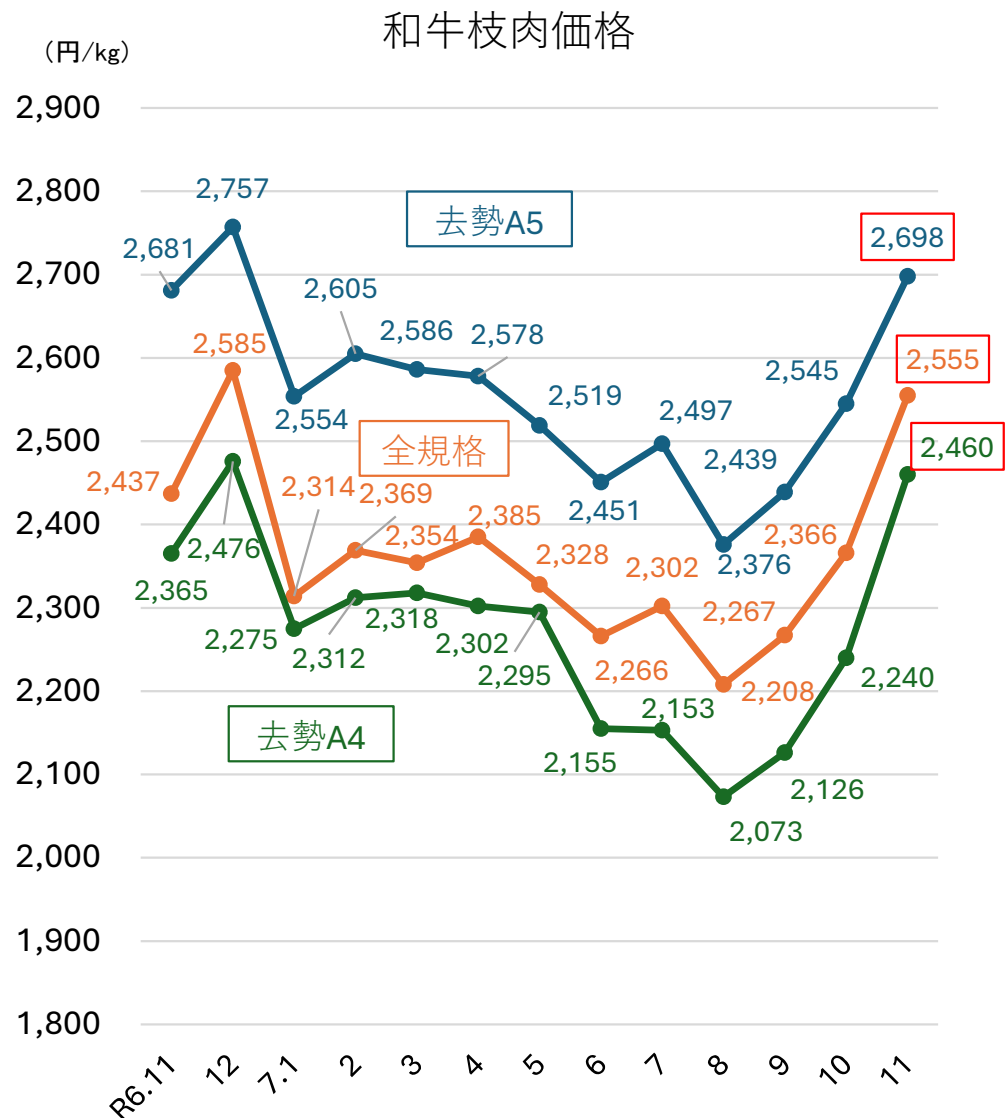
資料：総務省「家計消費」を基に作成
注：都道府県庁所在市及び政令指定都市の計52都市における2022年～2024年の平均購入金額及び数量を、各都市の3年間の世帯人数の平均で除して算出。

直近の和子牛取引価格及び頭数、和牛枝肉価格

- 和子牛価格は、最需要期である年末に出荷するもと畜となる2～4月頃に最も引き合いが強まる傾向。
- 和牛枝肉価格は、年末年始需要に向けて、11～12月頃に最も引き合いが強まる傾向。



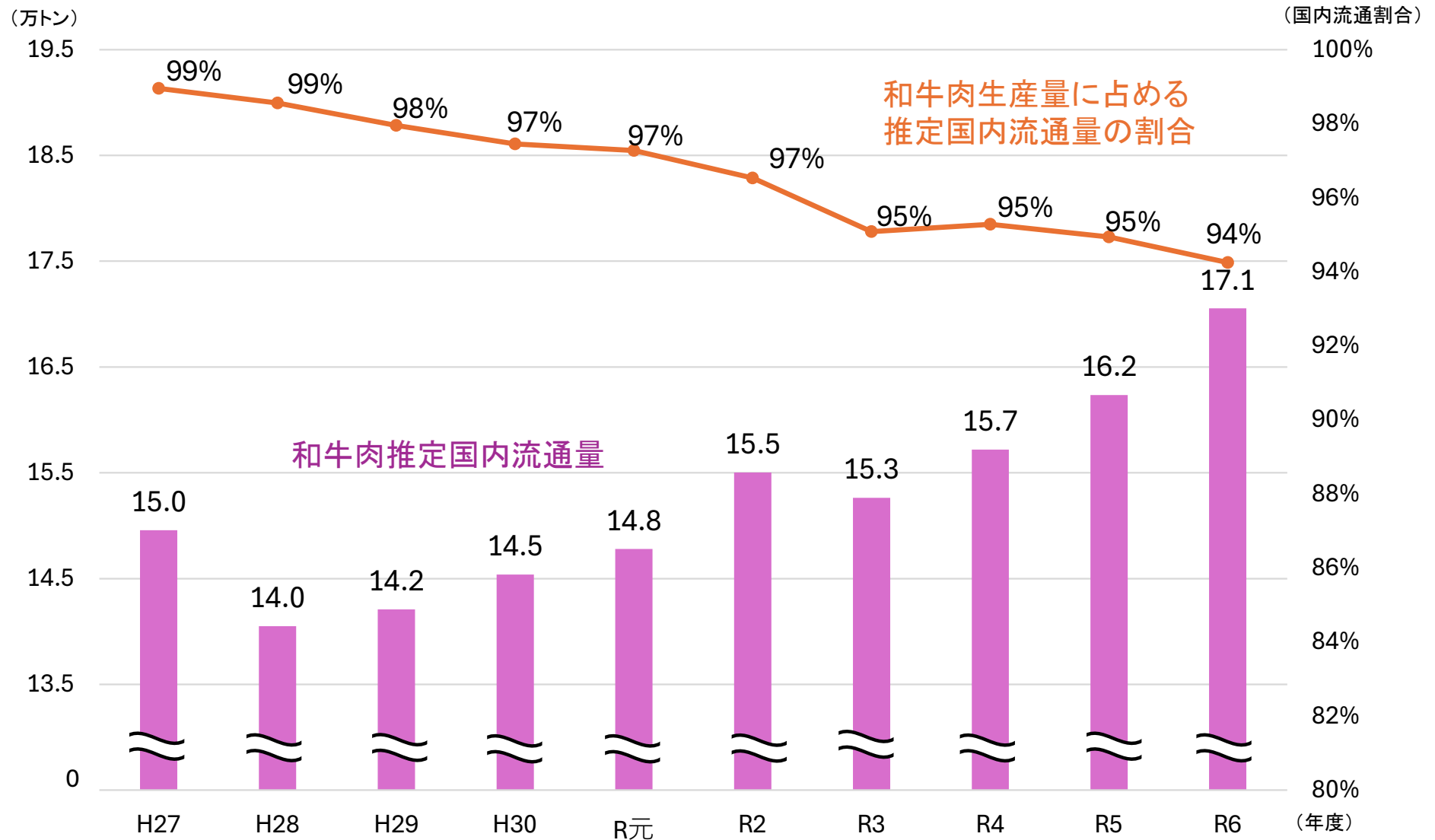
資料:ALIC「肉用子牛取引情報」(令和7年8月以降は速報値)



資料:農林水産省「畜産物流通統計」(中央10市場計)
令和7年11月は速報値(食肉鶏卵課調べ)

和牛肉の推定国内流通量の動向

- 和牛肉の国内流通量は増加傾向で推移。
- 和牛肉生産量に占める推定国内流通量の割合は、輸出量の増加により、微減傾向。

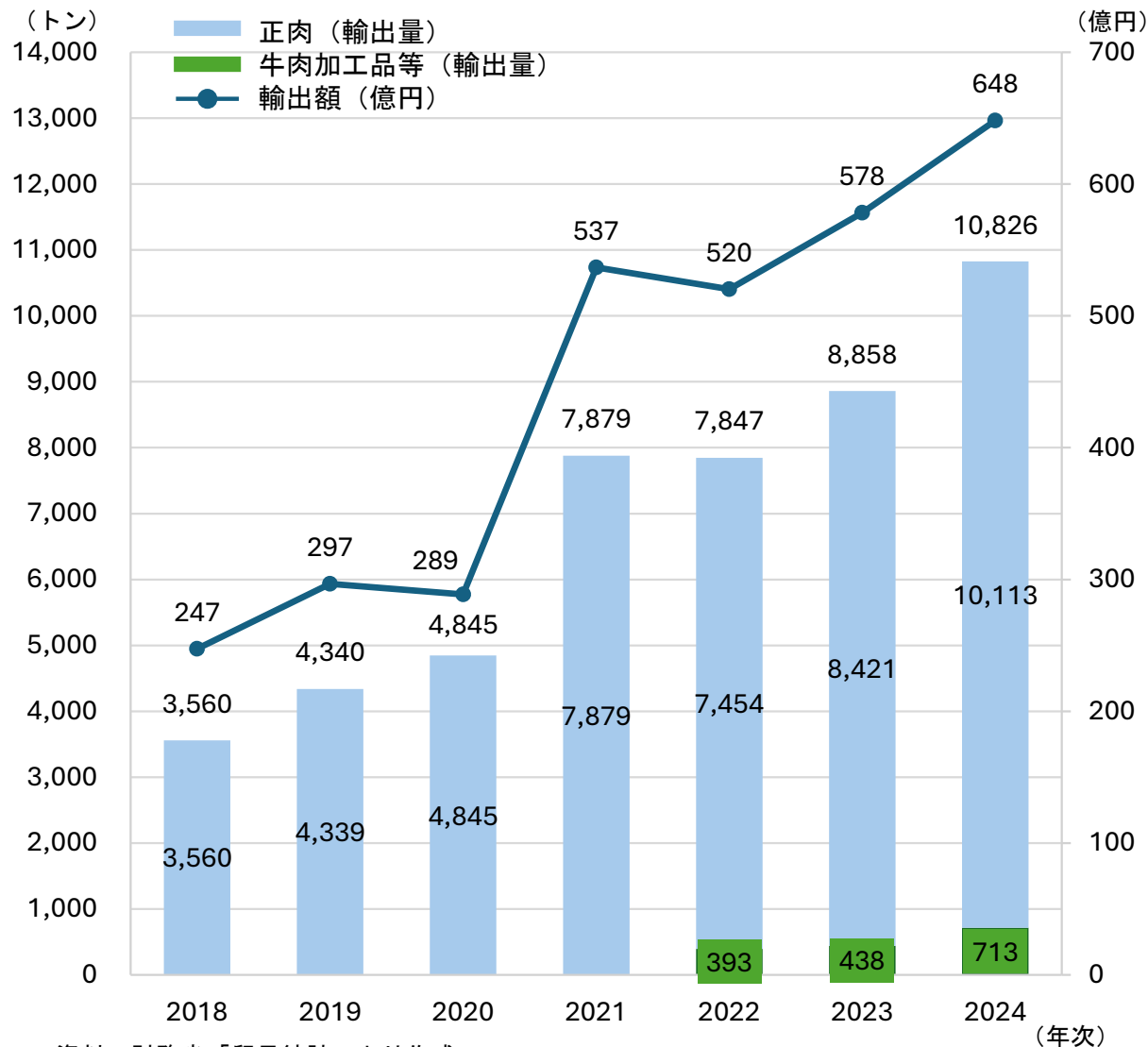


※推定国内流通量＝生産量－輸出量

資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」より推計（部分肉ベース）

牛肉輸出の動向

- 牛肉輸出量は増加傾向で推移。2024(令和6)年次の輸出実績は、輸出量は10,826トン（前年比122%）。
- 輸出先は、米国、台湾、香港がそれぞれ約2割を占める。
- 輸出量全体に占める冷蔵牛肉の割合は約47%。またロイン系の割合は約46%。

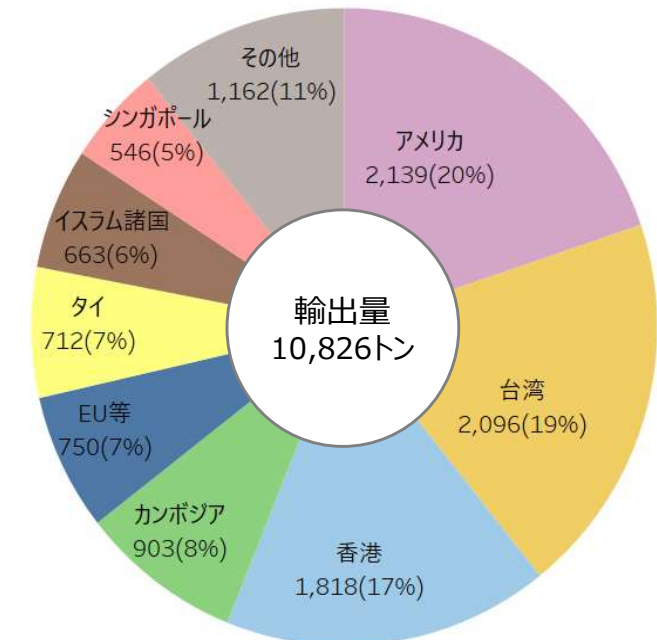


資料：財務省「貿易統計」より作成

注：正肉、牛くず肉、加工品の合計、原表ベース。ただし、2021年以前は加工品を含んでいない。

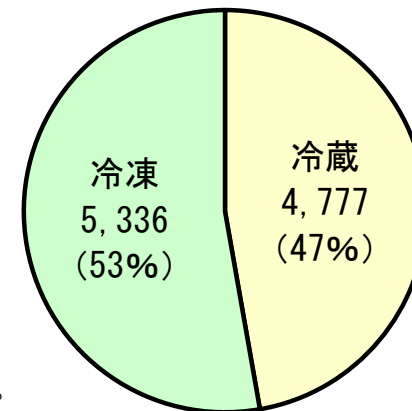
国・地域別

(2024年次、単位:トン)

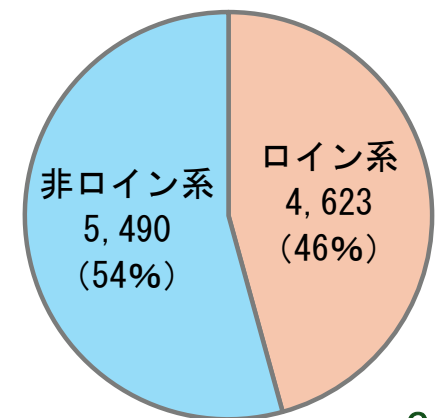


注：正肉、くず肉、加工品の合計、原表ベース。

冷蔵冷凍別

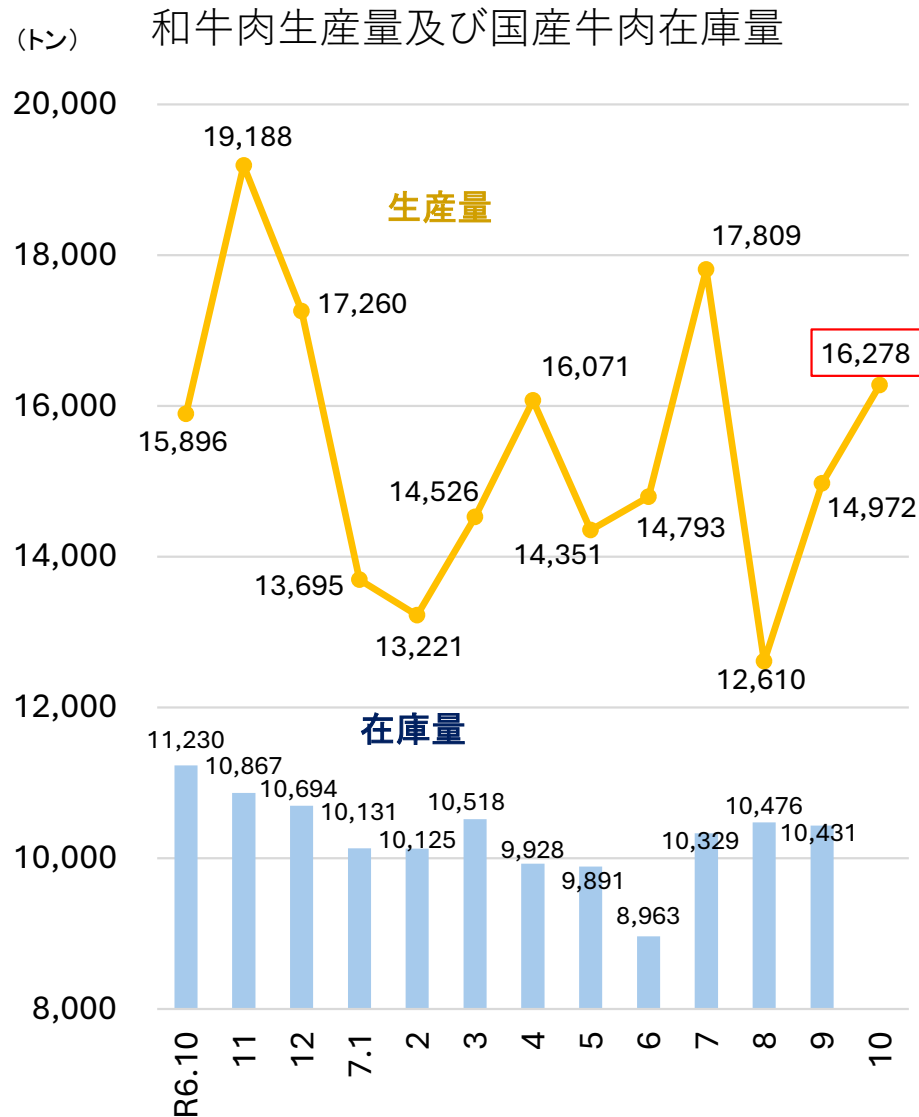


ロイン・非ロイン系別

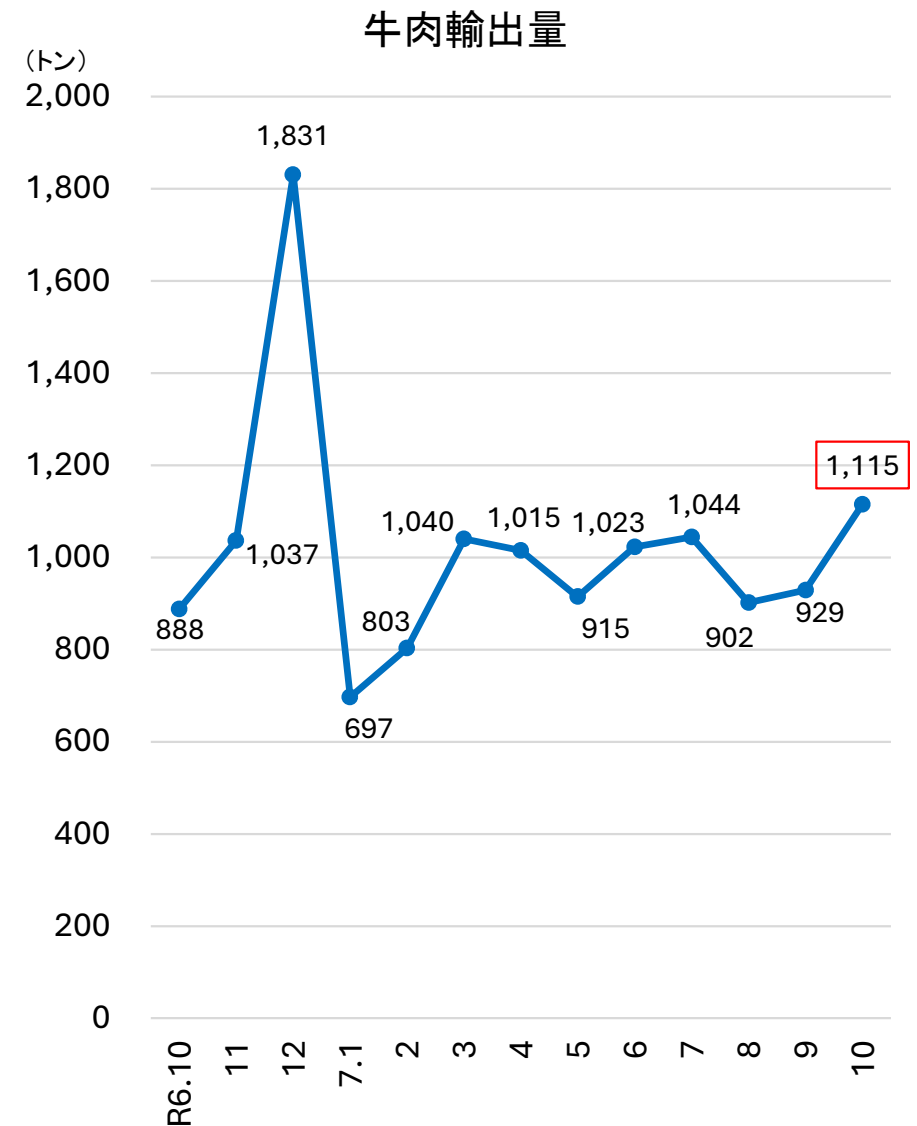


直近の和牛肉生産量、国産牛肉在庫量、牛肉輸出量

- 国内生産量は、年末需要に向けた11月に最も増加し、年度末や夏休み・お盆の時期にも増加が見られる。
 - 牛肉輸出は、年間を通じて安定した取引が行われている。
- 令和6年12月は、2025年分の米国低関税枠の早期消化に備え、枠の活用に向けた、輸出量の増加が見られた。



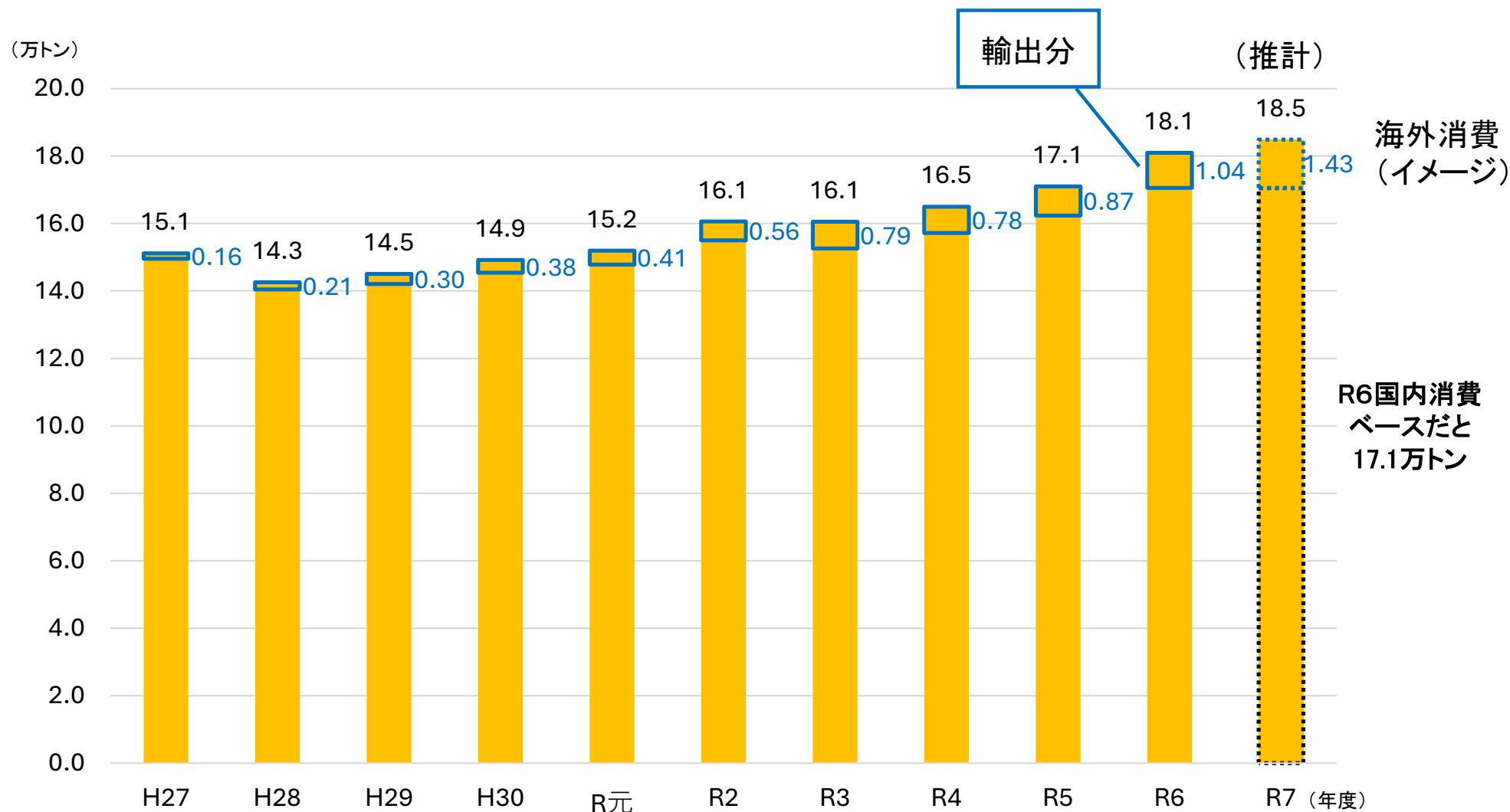
資料：農林水産省「畜産物流通統計」ALIC「牛肉の推定期末在庫（食肉等保管状況調査※）」
 ※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査。
 注：部分肉ベース



資料：財務省「貿易統計」

和牛肉生産量の推移と当面の見通し

- 和牛肉生産量は増加傾向で推移。
- 和子牛出生頭数等から当面の生産量を推計すると、令和7年度は18～19万トン程度で推移する見通し。

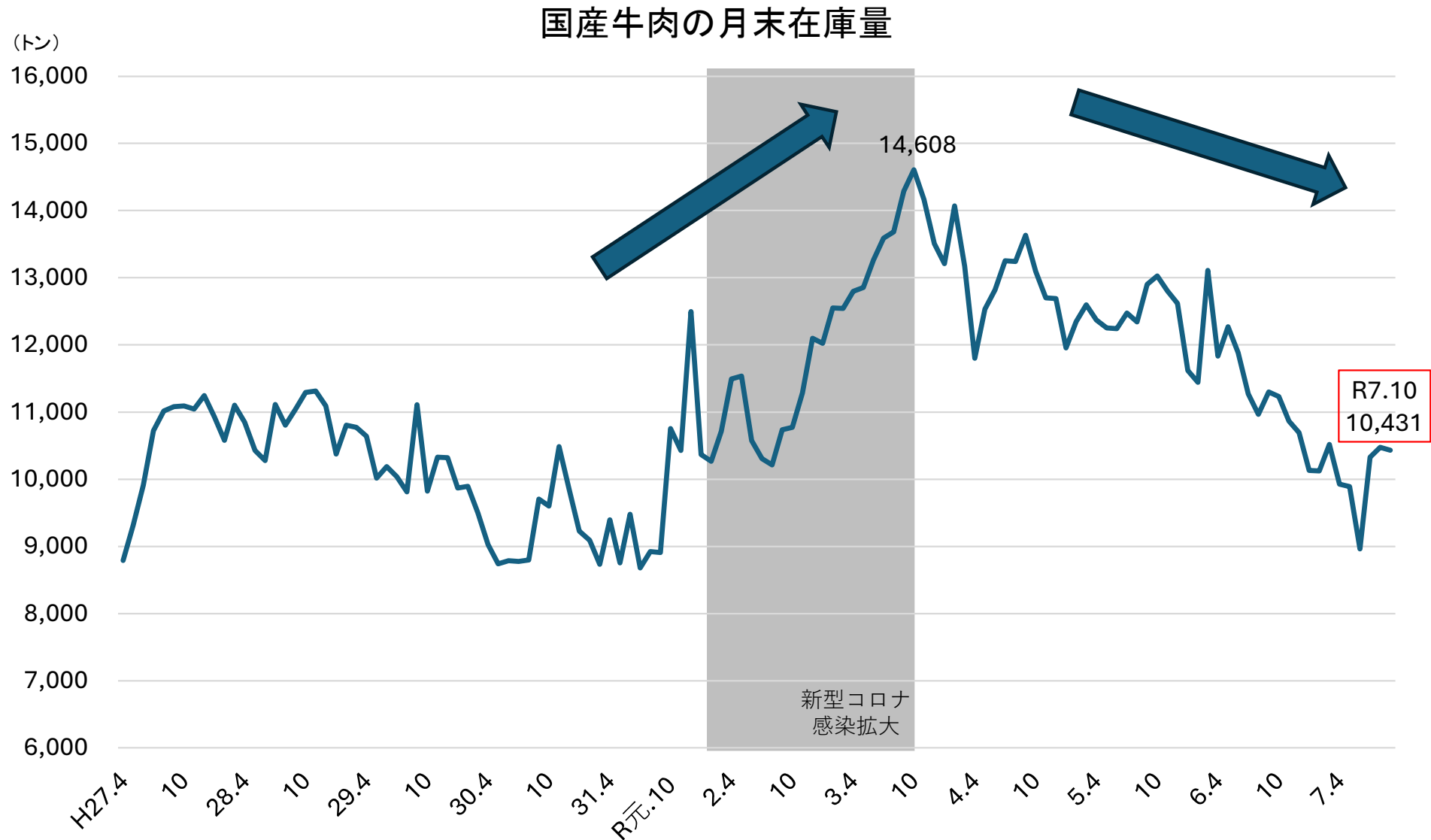


資料:農林水産省「畜産物流通統計」(R1～6)、食肉鶏卵課推計(R7)
※部分肉ベース

【R7の推計方法】
出生頭数等から推計したと畜頭数と、1頭当たり枝肉重量の増加トレンドを踏まえて推計。

【参考1】国産牛肉の在庫量の動向

- 国産牛肉の在庫量は、新型コロナウイルス感染症感染拡大時期に増加し、その後、減少傾向で推移。
- 直近の在庫量は、新型コロナウイルス感染症感染拡大時期以前の水準程度まで低下。

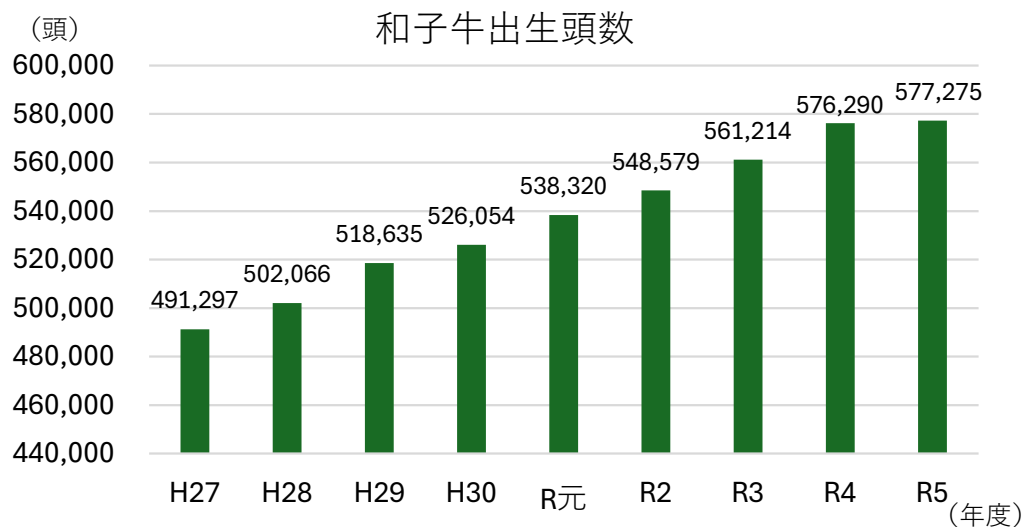
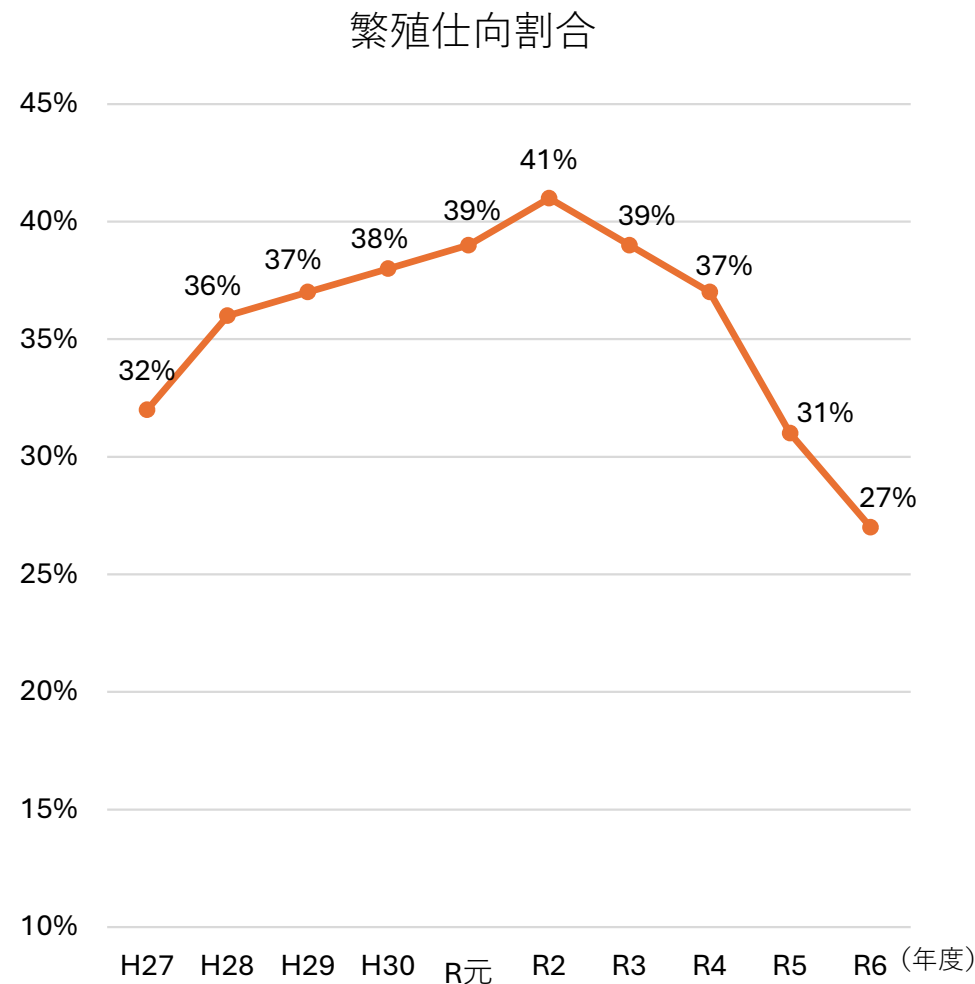
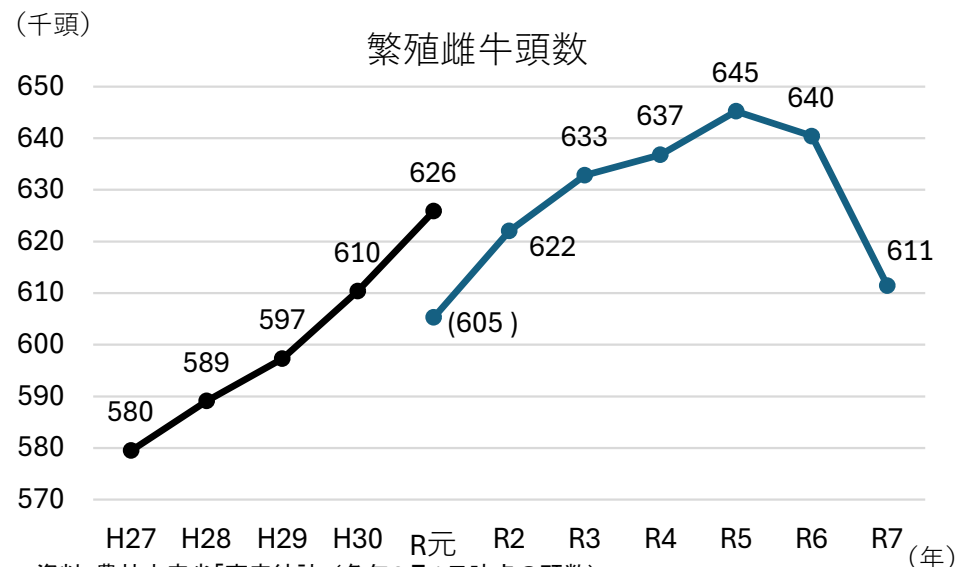


資料：ALIC「牛肉の推定期末在庫（食肉等保管状況調査）」

※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査した結果。

【参考2】繁殖雌牛頭数、繁殖仕向割合、和子牛出生頭数の動向

- 和子牛生産の源となる繁殖雌牛頭数は、令和5年度まで上昇傾向だが、令和6年度から減少傾向。
- 17カ月齢時点での雌牛の繁殖仕向割合は、令和2年度をピークに下落傾向。
- 繁殖雌牛頭数の増加等に伴い、和子牛出生頭数も増加傾向。令和5年度は前年度から小幅な増加に留まる。



注: 牛マルキンで17月齢時点で肥育牛に登録された頭数をもとに、繁殖仕向雌頭数(雄:雌の出生割合が51:49として肥育仕向雄頭数から同時期の雌頭数を推計し、これから肥育仕向雌頭数を引いたもの)を肥育仕向雌頭数と繁殖仕向雌頭数の合計で除して算出。

和牛肉の需給動向（まとめ）

消費	令和7年7月	8月	9月
一人あたり牛肉家計購入量(g)	153 (107%)	172 (102%)	146 (87%)

生産	令和7年8月	9月	10月
肉用子牛(黒毛和種)取引頭数(頭)	22,798 (93%)	30,586 (98%)	25,775 (90%)
価格(円)	662,736 (130%)	667,062 (133%)	670,482 (134%)

	令和7年8月	9月	10月
和牛肉生産量(トン)	12,610 (100%)	14,972 (105%)	16,278 (102%)

	令和7年9月	10月	11月
和牛枝肉卸売価格(全規格)(円/kg)	2,267 (103%)	2,366 (105%)	2,555 (105%)

	令和7年7月	8月	9月
国産牛肉在庫量(トン)	10,329 (92%)	10,476 (96%)	10,431 (92%)

輸出	令和7年8月	9月	10月
国産牛肉輸出量(トン)	902 (111%)	929 (93%)	1,115 (126%)

資料:総務省「家計消費」、ALIC「肉用子牛取引情報」「牛肉の推定期末在庫(食肉等保管状況調査)」、農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」

注:()内は対前年同月比

肉用子牛取引価格及び頭数の令和7年8月以降は速報値

和牛枝肉卸売価格の令和7年11月は速報値(食肉鶏卵課調べ)